

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句

一般の部



令和五年十月度 入賞句一覧

投句数 六百十九句

特選

大堀 武直 選

秋晴やひとつ余りし引出物

東京都新宿区 花澤 ちいこ

引出物が一つ余ってしまった。誰か忘れたのだろうか、余分に注文したのだろうか。何かすつきりしない。でも、そんなことは気にしなくてよい。澄み切った青空の下、イベントは無事終わった。楽しかった。  
季語「秋晴」のイメージは明るい。

はにかみに少女の残る敬老日

神奈川県横浜市 龍野 ひろし

敬老の日に招待され、皆に紹介され一言を求められた時などに、その様子が少女みたいであつた。  
恥ずかしがって俯いたり、手で顔をかくしたりする。  
まさに「可愛いお婆ちゃん」である。

うなづけば成り立つ会話月今宵

岐阜市 関谷 恭子

長年連れ添った老夫婦の姿が見えてくる。二人して月を眺めている。何も言わなくても二人の思いは同じ。若い頃のことや子や孫のこと。  
月は昔も今も変わらず優しい光を注いでくれる。「月がきれいですね」は、「I LOVE YOU」

秀逸

仕舞湯に心ゆくまで虫の声

養老郡養老町 田中 紫香

朝涼の香りも連れてローカル線

大垣市 石垣 珠泉

ライト浴びふるさと唄う手話の秋

大垣市 富田 洋子

八朔や膝に広がる農事メモ

養老郡養老町 佐藤 咲楽

読み終へし余韻のほのと火恋し

大垣市 白井 秀子

朝カフェに小猫のワルツ小鳥くる

大垣市 高津 喜久子

新蕈の香りを運ぶ夜風かな

大垣市 立川 昌子

栗ご飯見つけた栗は子の椀に

本巢市 土川 楽人

戸締りを忘れし裏戸蚯蚓鳴く

揖斐郡大野町 横山 道男

草の実の零れしもまた草の中

三重県三重郡 水野 悦子

入選

一般の部

黄昏の空埋めつくす翳雲

安八郡神戸町

早津 郁男

静かさや神の泉の声を聞く

埼玉県日高市

渡辺 義子

秋燈や巻き尾ほどきて犬眠る

本巢市

小泉 裕子

秋薔薇の香り残して瘠せてをり

大垣市

樋口 絹子

銀輪に水音涼し結びの地

大垣市

安田 貴史

天高し喉立てて啼く牧の牛

東京都世田谷区

関戸 信治

見上げたるダンス教室星月夜

埼玉県川口市

吉永 寿美子

橋の名と句碑の地図見て秋日和

兵庫県神戸市

田代 真一

初栗や木曾の山風連れてこい

京都府宇治市

古根 洋子

貧しき日不足なき日も大根煮て

大垣市

今津 絹代

小夜の雨葉先にひかる今朝の秋

大垣市

早筈 千恵子

すいつちよん一瞬青き筋残し

各務原市

野村 かおり

笑栗を飾り奥飛驒鄙び宿

不破郡垂井町

西田 厚堂

返事なき父の書齋や秋日差す

神奈川県川崎市

立野 音思

温かな夜食の誘ふ眠りかな

東京都足立区

山崎 董久

祝詞聴き秋のこゑまで重なれり

三重県津市

水越 晴子

車座の昔語りや盆の月

不破郡垂井町

石井 直実

秋うらら鼻絡め合う象の恋

埼玉県東松山市

谷本 だつく

猫の尾の影くつきりと良夜かな

大垣市

三葉 すみ子

草紅葉舟蹴つて乗る川漁師

大垣市

村田 通夫

選者吟

新米や濃尾輪中の一住人

武 直

